

薬剤師がデンタルミラーで「口の中」観察 口腔ケア学会、初めての实技セミナー開催

2023/4/20 21:47



日本口腔ケア学会によるセミナーの様子 (20日 = 都内)

日本口腔ケア学会は20日に都内であった総会・学術大会で、口の中を観察する実技を含む薬剤師向けの口腔内フィジカルアセスメントのセミナーを初めて開いた。薬剤でも引き起こされる口腔乾燥症を軸に、症状を訴える患者にヒアリングすべき項目などを説明。参加者20人は、実際にデンタルミラーを使って互いの口の中を見るなど、薬剤師にとって新たな領域への「第一歩」を踏み出していた。

「口の中を見るのに慣れよう」。セミナーは、講師を務める九州大大学院歯学研究院の大山順子講師のかけ声で始まった。まずは口腔乾燥症について、服用している薬物のほか、熱性疾患や心不全、過度なアルコール摂取や緊張状態などさまざまな原因があり

得ると座学で説明。唾液腺自体の障害の可能性もあり、「薬剤性だけでなく他の口腔感染症と合併している症例も多い。全身状態や既往歴、生活習慣などの情報を集めてほしい」と求めた。

具体的に窓口でヒアリングすべき項目については、現病歴として「いつから乾いていると思うようになったか」「その前後で全身状態や生活環境に変化はなかった」などを質問例として示した。注意すべき既往歴として糖尿病や腎疾患などを挙げたほか、口腔乾燥を引き起こす内服薬の有無などもポイントとして示した。「服薬を始めて数カ月内で発症した口腔乾燥の場合、薬剤の影響も考慮して処方医や歯科医師に情報提供してほしい」とした。

●薬局でも実践できる「実技」に

実技は、歯学生向けとほぼ同じ内容で構成。デンタルミラーの使い方とコツの説明を受けた参加者は、薬剤師同士で口の中にミラーを差し込んだり、動かして唇を引っ張ったりして口腔内を観察した。さらに、痰の代わりに口に含んだオブラートをスポンジブラシで取り除く手技にも取り組んだ。

実技で学んだことを薬局店頭でも実践できるように、観察に先立っては爪の隙間のアルコール消毒からフェイスガード、個人用防護具の着用までを経験。参加者の一人は「求められる場面があれば積極的に取り組みたい」と話していた。

●「最初の一步」今後も開催へ

同学会では2021年4月に薬剤師部会が発足。昨年4月からは薬剤師向けの認定制度をスタートさせた。また昨年度は部会内の薬学教育を担当するグループの働きかけで、600人を超える薬学生が同学会の「口腔ケアアンバサダー」の認定を受けたという。薬物治療や公衆衛生の項目に「口腔ケア」が盛り込まれた新たな薬学教育モデル・コアカリキュラムの適用（24年度入学生から）を前に、この領域に関わる薬剤師の育成に力を入れている。

部会長を務める慶応大薬学部の山浦克典教授は、今回の実技を含むセミナーを「最初の一步」とみる。副作用による口腔乾燥などを知るには、患者からの聞き取りにほぼ限られていたが、「口の中を目で見て確認できるようになれば、早期発見や受診勧奨につながる」と展望を描く。今後も、同学会総会などのタイミングで定期的に実技セミナーを開く方針だという。(折口 慎一郎)

All documents,images and photographs contained in this site belong to JIHO,Inc.

Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.

Copyright (C) JIHO,Inc.

株式会社じほう